

平成 21 年度厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）
 「重症新生児に対する療養・療育環境の拡充に関する総合研究」

分担研究報告書
 「各医療環境を結ぶコーディネーターの機能と問題点に関する研究」

分担研究者 飯田浩一 大分県立病院新生児科

研究要旨

NICU 入院児支援コーディネーター（以下、コーディネーター）を有効に機能させるために、現在のコーディネーターの配置や活動状況とその養成法について検討した。

平成 21 年度中に 3 自治体でコーディネーターが活動を開始し、平成 22 年度中にさらに 1 自治体で配置予定であった。コーディネーターは NICU 長期入院児を自宅へ退院させるにあたり多職種連携のための調整機能を果たしていた。コーディネーターをより機能させるためには看護師と保健師の複数配置が望ましく、財政的支援も考慮すべきであった。また、多職種連携を促すために退院時共同指導料の拡充が必要と考えられた。コーディネーターの業務は多職種と関わるために幅広い知識が必要であり、その習熟のためにコーディネーター養成講習会プログラム案を提案した。

A.研究目的

1. NICU 入院児支援コーディネーター(以下、コーディネーター)が各施設の連携を効果的にするための障害・問題点を分析し対策を提言する。

2. NICU 入院児支援コーディネーター養成講習会プログラムを作成する。

既に配置した	2 自治体
この事業を利用して 今年度中に配置予定	0 自治体
この事業を利用して 来年度中に配置予定	1 自治体
別の制度を利用して同様の 業務を行う職員を配置	1 自治体
配置の予定なし	38 自治体

B.研究方法

1-1) 47 都道府県の母子保健担当部署に対するアンケート調査

1-2) コーディネーターを配置した自治体に対する個別調査

2. 上記を参考に講習会プログラムを計画

C.結果

1-1) コーディネーター配置状況

① 回答率

43 都道府県（回答率 91%）

② コーディネーター配置

この事業を利用して

本事業： 周産期医療対策事業における
NICU 入院児支援事業
SW： ソーシャルワーカー

	大分 県	熊本県	長野県	大阪府
事業名	本事業	本事業	本事業	ふるさと 雇用再生 基金事業
配置年 度	21 年 度	21 年度	22 年度	21 年度
人数	1	1	1	13 人
配置部 署	病院	県母子保 健担当等 部署	病院	病院
職種	看護 師	保健師	未定	SW
専任、 兼任 身分	兼任	専任	未定	専任
	常勤	非常勤	未定	非常勤

1-2) コーディネーターを配置した自治体への
実態調査

調査項目

- ①NICU と地域の医療施設・福祉施設・行政機
関との連携を構築すること
- ②疾病をかかえた長期入院児をスムーズに自
宅へ退院または療育施設へ転院させること
- ③そういう長期入院児の家族に医療面・福祉面
での情報提供を行うこと
- ④退院・転院した長期入院児が NICU 内より
よりよい QOL を獲得できていることを評価す
ること
- ⑤そういう長期入院児の家族を精神面でサポ
ートすること

- ① NICU と地域の医療施設・福祉施設・行政
機関との連携を構築すること

大分県：

大分県重症児(者)連絡会 発足
NICU 入院児支援対策検討会議 開催
大分県小児在宅ケア研修会 開催
子育て支援連絡会議 参加
在宅人工呼吸児のケア会議 開催

熊本県：

NICU 入院児支援事業連絡会議 開催
退院前の在宅移行調整会議 参加
(行政機関出席への調整)
退院後の在宅調整会議 参加
(行政機関主催する上での調整)
退院後のモニタリング訪問
(関係機関と同行) など

大阪府：

長期入院児退院促進等支援事業
在宅高度医療児支援ネットワーク事業

- ② 疾病をかかえた長期入院児をスムーズに
自宅へ退院または療育施設へ転院させる
こと

大分県：

6 ヶ月 重症新生児仮死 在宅人工呼吸管
理 経管栄養

訪問診療所、訪問看護 St、介護 St、行政保
健師、医療機器業者、指定相談支援事業所 SW、
療育施設 PT、補装具業者、レスパイト施設、
救急隊

8 ヶ月 喉頭気管軟化症 気管切開

近隣小児科、訪問看護 St、行政保健師、レ
スパイト施設、医療機器業者、救急隊

4 ヶ月 慢性肺疾患 在宅酸素療法

近隣小児科、訪問看護 St、行政保健師、医
療機器業者、救急隊

大阪府

事業のあり方やコーディネーター等スタッフの役割等について検討しながら事業を推進しているところであり、現時点で提供できる情報はなし。

2.NICU 入院児支援コーディネーター養成講習会プログラム

目的

NICU 長期入院児の QOL を向上させるために、児の医学的病状を理解し、社会医療・福祉資源を有効に活用し、適切な療育環境を提供できるよう関係機関と調整できる人材を養成する。

対象

医師、看護師、保健師、メディカルソーシャルワーカー

方法

講義と事例を通じた演習を主体とする

講義

長期入院児の病状について
長期入院児の家族への支援について
在宅医療について
重症児施設、療育施設について
訪問診療・訪問看護について
介護ステーションについて
社会福祉に関する法律について
重症児とその家族のメディカルサポート

について 事例検討

グループディスカッション

講演

事例紹介を通しての在宅支援

(案)

1 日目

13 : 00-13 : 50

長期入院児の現状と病状

NICU 医師

(NICU 長期入院児の医学的病状となぜ退院にならないかの課題の指摘)

13 : 50-14 : 40

長期入院児の退院に繋がる家族支援

NICU 看護師

(長期入院児を在宅へ向かわせるまでの家族への具体的支援)

14 : 40-15 : 30

在宅医療の実際

訪問診療医師

(在宅医療の医学的内容と療養上の問題点の指摘)

15 : 40-16 : 30

重症児施設・療育施設の現状

地域療育コーディネーター

(重症児施設での療養内容となぜ入所できないかの課題の指摘)

16 : 30-17 : 20

児童相談所の役割

児童相談所相談員

(長期入院児への児童相談所の関わり方、役割)

17 : 20-18 : 10

社会福祉に関する法律について 行政母子保健担当

(長期入院児が利用できる福祉・手当等の解説)

2 日目

9 : 00-9 : 50

訪問診療・訪問看護について

訪問看護師

(訪問看護の実際と課題)

9 : 50-10 : 40

介護ステーションについて

介護士

(介護ヘルパーの役割と課題)

10 : 40-11 : 30

メディカルサポートについて
臨床心理士 or MSW
(退院するまでと退院後のサポート)

13:00-15:30

グループディスカッション

長期入院事例提示して、

- ① 退院までにすべきこと
- ② 多職種連携
- ③ 退院カンファランスの開催
- ④ 退院後のフォローアップ

(可能であれば実際の事例を通して、インターネットを利用し、具体的な多職種連携の形を構築してみる)

15:30-16:30 講演 NICU 入院児支援コーディネーターの講演

参考文献

在宅療養児の包括的看護の確立に向けたコーディネーター育成プログラムの開発

平成 15—17 年度科学研究費補助金 研究課題番号 15592264

基礎研究 (C) 研究成果報告書

平成 19 年 2 月

研究代表者 奈良間 美保

D. 考察

周産期医療対策事業における NICU 入院児支援事業でコーディネーターが位置付けられてから 2 年を経過し、4 自治体でコーディネーターが配置あるいは配置予定であった。配置されたコーディネーターは既に NICU から自宅への退院支援を実行しており、十分に効果を発揮してきている。さらに、多職種・多施設を連携させるための様々な活動が行われている。大分県では訪問看護師を対象に小児在宅ケア研修会を開催し、今はまだ少ない小児を看る訪問看護ステーションを増やす努力を始めている。

大分県では NICU の看護師が兼任でコーディネーター事業を行っており、NICU から退院まではスムーズであるがその後のフォローが

充分にはできていない。一方、熊本県は保健師が専任で行っており、退院後のフォローも行っていた。専任の看護師と保健師の共同で行っていくのが理想的と考えられる。人件費の問題があるが、短期間のうちにこれだけ在宅支援が進んだことを考えればこの事業はもっと全国に広めるべきであり、そのためには財政面でのさらなる支援が必要である。

運用上の問題として、退院時共同指導料が問題として上がった。NICU から自宅に退院する児は重症な児が多く、退院時共同指導は 5、6 回に及ぶことも多い。入院中に 2 回までではなく、共同指導した回数だけ算定できるようにすべきである。また、在宅に関わる訪問看護ステーションや介護ステーションも何らかの形で算定できる指導料があるべきと考える。

コーディネーターは長期入院児の在宅支援に対して十分な役割を果たすことができているが、各自治体への配置はいまだ拡がっていない。このコーディネーターは小児医療からこどもの成長、福祉行政、就学援助まで非常に幅広い知識が必要とされるので、その人材の養成も同時に行っていかなければならない。NICU 入院中から退院に向けて、退院後の訪問診療、訪問看護、介護、療育との関わり、福祉行政の内容など多職種の業務を理解すべきであり、前述した講習会プログラム案が参考になれば幸いである。

E. 結論

1. NICU 入院児支援コーディネーターは 3 自治体で配置され活動していた。
2. コーディネーターが関わって多職種の連携を深め、複数の NICU 入院児が自宅に退院していた。
3. 多職種がより関われる診療報酬体制が必要である。
4. NICU 入院児支援コーディネーター養成講習会プログラム案を提示した。

別紙 4

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
飯田浩一	現場でのジレンマの事例 とその解決策 長期入院 事例 新生児科医師	周産期医学	39	1231-33	2009